

大切に育てていきたい「多様性と調和」の精神

「血筋を異にする新日本人」

21世紀に入って高橋尚子や北島康介などが続々と金メダルを獲得しだした時には、長嶋茂雄流プラス思考発想の「新日本人」の時代が到来したように見え頼もしく思えましたね。しかし、今回の東京オリンピックはそのような「性格的な新日本人」ではなくて「血筋を異にする新日本人」が跳梁していました。開会式からして、男子バスケットボールの八村塁（父親がベナン人／母親が日本人）が旗手、女子テニスの大坂なおみ（父親がハイチ系アメリカ人／母親が日本人）が最終聖火ランナーを務めていましたものね。柔道 100kg 級で金メダルを得たウルフ・アロン（父親がアメリカ人／母親が日本人）なんか苗字も名前もカタカナ表記ですもの、「日本人も変わったものだなあ」と思いました。

日本人の“津波”のような海外進出のお陰で

数年前の日本語教師を務めた時のことでした。折から降りしきっている「梅雨」を説明しようとしてまずは梅の花の写真を国籍が様々な生徒に見せました。次いで「梅干し」の写真を見せたところ教室のあちこちから「あのスッパイの」という声が聞こえてきたので驚きました。はてさて、この純日本食品と思われる梅干の味をご存知とはこはいかに！そして、調べてみると、受講者のほとんどが日本人の配偶者だということが分かりました。その昔、津波のような勢いで日本製品が世界市場に押し寄せて”Tsunami”がそのまま英単語として定着した時期がありました。そうか、日本製品ばかりでなく日本人が Tsunami 状に世界に進出して行って、世界各地で日本人の国際結婚が進んでいたんだな、きっと。そして、そうした国際結婚カップルが来日しているから、知らぬ間に日本人人口における構成比が高まっていたのだ！…と驚きながら諭されたような思いがしました。しかし、今回の東京オリンピックで活躍した「血筋を異にする新日本人」は既に成長してスポーツ選手になっているんですね。愚鈍な私が日本語教室の場で気が付くのより遥かに前に日本人の国際結婚が幅広く行われていたのだと改めて思いました。

日本女子バスケットボールチーム支えた新日本人選手二人

女子バスケットボールでも「血筋を異にする新日本人」が活躍していましたね。バスケットボール音痴の私が調べたところ、左の写真で Japan のユニフォームをまとっているのは「馬瓜エブリン選手」だと分かりました。ご両親がともにガーナ出身で、日本国籍を取得してエブリンちゃんを愛知県出身の日本人娘として育てあげられたのですね。明るい性格

なのですが、文学好きで、法務省が主催する全国中学生人権作文コンテストで賞を受賞したこともあるのだとか。実妹の馬瓜ステファニーも3人制バスケットボールのコートで日本人選手として爽やかな笑顔を振りまいていたのだそうですよ。



もう一人、右の写真の通り活躍している「血筋を異にする新日本人」選手がいたので調べてみたら「オコエ桃仁花」選手だと分かりました。「オコエ」だというので「オヤ？」と思って更に調べてみると、2015年にプロ野球楽天イーグルスにドラフト1位で入団したオコエ瑠偉選手の妹さんだと分かりました。父親がナイジェリア人、母親が日本人で、兄妹仲睦まじく「DNAを異にする新日本人」として立派なスポーツ選手に育っていたのですね。

初の銀メダル獲得の源泉は「多様性と調和」にあった

しかし、日本女子バスケットボール・チームのベンチにいたいかにも白人男性と思われるヘッドコーチに対しては「こいつは許せない」と嫌悪感さえ感じました。国別の競技能力を競うオリンピックの場に、国別競技能力決定の要となる指導者の立場に外国人を据えるというのは筋違いではないか。これでは、かつてトルシエなるフランス人を監督に据えたチームを「トルシエ・ジャパン」と称していたサッカー界のデタラメさを繰り返しているだけではないか…といや増す嫌悪感。しかし、そのうちに白人男性氏が流暢な日本語を話したので驚きました。そして調べてみると、その人の名はトム・ホーバス。アメリカで生まれ育っていますが、日本のチームでもプレイしていた経歴もあり、日本在住歴も長いのだそうです。日本人の奥さんがおり、子供も二人いるそうですが、何より「多少の間違いがあっても自分の言葉で伝える方がインパクトがある」と語るところが気に入りました。こんな模範的な日本人国際結婚カップルがおればこそ、東京オリンピックがビジョンとして掲げる「多様性と調和」を全うした日本女子バスケットボールのチーム編成ができ、初の銀メダルを獲得することができたのだと改めて思っています。

国際的に「多様性と調和」を呼びかけていこう

今回の東京オリンピックでは、中国がアメリカに次いで数多くのメダルを獲得しました。インターネットの普及を背景として中国は1990年代中盤から「世界の工場」の座を占め

てから中国の経済力は高まり、日本人に変わって中国人が世界に進出しました。恐らく次々回あたりのオリンピックには、「血筋を異にする新中国人」が活躍することになるでしょう。中国の経済力向上は、日本の経済力向上の場合と違って軍事力の強化を伴うものだけにアメリカとしても気になるところだと思いますが、中国の経済力向上自体がアメリカや日本などによる中国に対するアウトソーシングの結果生まれた事態であるということ認識しておく必要があります。国際情勢の変化に伴って「多様性と調和」の要請もますます高まってくるものと思います。まさに不戦平和憲法を擁する日本の出番ではありませんか。国際的に「多様性と調和」を呼びかけながら、国際的な武力対立の解消に努めていくところに日本の存在意義があるのだと思います。